令和5年度　学力向上を図るための全体計画

31練馬区立光が丘夏の雲小学校

関係法規等
・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法

学校教育目標
○　進んで学び　深く考える子供
○　思いやりをもって　行動する子供
○　体をきたえ　やりぬく子供

児童・保護者・地域の実態・教師の願い
・落ち着いて生活、学習ができる児童、教育活動に関心の高い保護者、光が丘に誇りをもつ地域、統合前の旧校の良さを大切にしてほしいとの願い。それらを踏まえた教育活動を展開し、児童の学力を向上させていきたい。

各教科の指導の重点
○個々の児童に応じた指導を行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
○児童の学ぶ意欲を高めるために少人数・TT・グループ学習を行うなど、指導方法や指導体制の工夫・改善に努める。

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）
○教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る「カリキュラムマネジメント」の確立を図り、各教科では、資質・能力が偏りなく育成されるよう、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
○全ての児童の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。
○これまでの実践とICTとの最適な組み合わせの実現を図る。
○児童の実態に応じ、補充的な学習や発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の充実を図る。

道徳教育の指導の重点
○社会規範・行動様式の内面化を図り、家庭や地域と連携し、思いやりの心や協力する気持ちを大切にした道徳的実践力を育成する。
○教育活動全体を通して道徳的心情・態度を育成する。
○学校・家庭・地域社会の連携による道徳教育を推進する。

本校における　「確かな学力」

進んで学び、深く考える子供

学んだことを生活や学習に生かす力

各教科・領域等で身に付けさせたい基礎・基本

学習への興味・関心・意欲

基本的な生活習慣・学習習慣

総合的な学習の時間の指導の重点
○児童の興味・関心を生かし、教科から発展させた課題や地域の特色を生かした課題を設定し、児童自ら課題解決に取り組む態度や能力を育てる。
○課題解決のために、外部指導者との協力指導や様々な学習方法等を工夫する。
○校内研究と関連させ、探究的に関わりを深めるための、地域の人・もの・ことを新たに発掘し、単元や指導計画の再検討をする。

特別活動の指導の重点
○学級活動および児童会活動の充実を図るとともに、望ましい集団活動を通して豊かな人間関係を育む。
○学校行事における体験的な活動を通して、喜びや苦労を分かち合い、集団への所属感や一体感を深める。
○クラブ活動を通して、興味・関心を追究する活動を行い、個性の伸長を図る。

キャリア教育の指導の重点
○日常の学習の中で、児童一人一人が自分の能力や良さに気付き、自己の可能性を追究する態度を育てる。
○地域で働いている人や地域の人々と触れ合うことにより、望ましい勤労観・職業観を身に付け、自分の生き方について考えさせるようにする。
○成育段階に応じたキャリア発達の特徴を捉え、充実を図り、自分で課題を見いだし、挑戦する気持ちを育成する。

生活指導の重点
○職員全員が共通理解の下、組織的に課題の解決にあたり、心身ともに健やかな児童の育成を図る。
○登校しぶりや友達関係など、児童の心の悩みの解決のために、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員等との連携を図る。
○児童の安全を守るため、非常時における緊急対応や連絡体制の整備をするとともに、安全指導の徹底を図る。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫の視点に沿った工夫
○教員は「分かる喜び」「できる喜び」「表現する喜び」を味わえる授業を行うように努め、児童に確かな学力を付けることを目指す。 ○ICT機器やタブレット端末を使用して「分かる喜び」「できる喜び」「表現する喜び」の実現を図る。 ○3～6年生の算数で、少人数指導加配教員を活用した習熟に応じた少人数指導を計画的に行う。また、学力向上支援講師を活用した徹底した基礎・基本の定着を目指す。また、3年生以上の学年では、交換授業や一部教科担任制の実施、グループ編成の工夫を行うなど、複数で児童の指導に当たる。 ○「夏雲小のきまり」の定着を図り、学習規律を保った授業を実施する。 ○児童一人一人の学習状況を的確に把握するために指導記録等を取り、個に応じた適切な支援を行うことによって、達成の喜びを味わわせる工夫をする。	○学習指導要領を踏まえた授業時数と指導計画に基づき、授業を実施する。 ○週ごとの指導計画の作成・提出により、学習指導計画の具現化を図り、見通しをもって指導を行うとともに授業時数確保を図る。 ○学年推薦図書の紹介等を行い、読書指導の充実を図る。 ○体力テストを実施し、児童の体力を的確に把握するとともに、体力向上に向けた取組を行う。	○学習指導要領が示した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。全体や個を意識した質の高い授業を目指すために以下の方策を実施する。 ①　授業観察の充実を図る。（毎日少しの時間でも全学級を見て回り、適宜指導を行う） ②　お互いが授業を見合える環境づくりをする。 ③　主任教諭によるOJTの充実を図る。 ○今年度より生活科総合的な学習の時間を中心に研究をすすめ、「伝え合いの工夫」「つながりや関わりのある場面設定」「ICTの効果的な活用」の3つの柱を設け、研究に取り組む。 ○月1回以上の校内研究会を設定し、研究の指針を明確にして共通認識の下で研究活動が行えるようにする。また、分科会内等の授業も含めて、一人一回は研究授業を行う。 ○中学校と互いの授業を参観し合うなど、小中一貫の視点をもって、研究	○記憶に頼らず、記録に基づいた適正な評価を行う。また、毎時間、ねらいと評価を明確にした授業を展開する。 ○意図的・計画的な学習活動と評価を行うために、年間学習指導計画・評価計画を作成し、各学級等では児童の実態を踏まえて学級経営計画・教科経営計画を作成する。 ○児童自らが学習状況を的確に把握し、意欲をもって積極的に学習活動を行うために、自己評価活動の充実に努める。	○家庭学習を定着させるために、タブレット端末のドリルパークなどを積極的に活用し教師が学習の進捗を確認する。 ○図書館支援員との連携を図るとともに保護者による読み聞かせを読書活動の充実に生かす。 ○読書月間や読書旬間の取組として、全校で読書の継続的指導を行い、読書週間の定着を図る。 ○地域協力員の協力のもと外国語活動、外国語科の充実を図り、英語教育の向上を目指す。また、2学期に実施される4技能検定においても地域協力員の協力を仰ぎ、技能向上を目指す。 ○放課後未来塾において児童の基礎基本の力の向上を図る。	○校区別協議会や部活動体験の実施、小中一貫教育研究グループによる研究成果の活用、研究会への参加等を通して光が丘第三中学校との連携を図る。 ○職場体験の生徒の受け入れや夏雲フェスティバルの生徒によるボランティアスタッフの要請をし、児童、生徒との交流を図る。